
とある少女の私設部隊

戸里山ジョンソン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある少女の私設部隊

【Nコード】

N3780U

【作者名】

戸里山ジョンソン

【あらすじ】

学園都市の影の影の話

序章（前書き）

駄文ですが。

序章

「え？待てよ。何が欲しいんだよ！？」

そう、怯えた安っぽい命乞いが無機質な部屋に響くと同時にまた新しく棺桶が必要になった。

「おーい雲川ア」

「何？終わったなら帰ってくればいいけど？」

「あのオ」

「ん？」

「護衛の数が違うんだよね」

「……………」

長いようで短い沈黙の後、雲川は一気に吐き出した。

「それは私も初めて聞いたんだけど」

「あのな、使えねー下部使ってんじゃあないよー」

そこで電話が切れた。

「めんどくさい。実にめんどうだ」

と彼は常磐台のレールガンも驚くような高電圧を放ちながら云う。

そして、学園都市に雷が落ちた。もちろん、人工の。

式 倦怠感（前書き）

前置きが長いですがご了承くださいませ

式 倦怠感

「あゝ。」

いつもそうだ。気だるそうな声で入ってくる。

「おもしれーWWW」

「なァゝに笑ってんだ」

「だって下部の尻拭いしたんだろWW」

「ああ、ボランティアでな。お陰さまでタノシメマシタヨ」

そう言って如水は高そうな椅子に品格漂う姿で座っている少女を見た。いや、睨んだ

「何かな川守君。言いたそうなことでもあるようだけど？」

「ないからそれ以上喋んなよ。」

「ホントに怒ってるW」

これが人口230万の学園都市のほんのわずかな空間で行われてい

るやり取りである。

こうして今日も平穏な学園都市であったが、先日学園都市のとある場所でローマ正教とイギリス清教間の争いがあり異様な雰囲気包まれていた。

先ほどまでイラついていた川守だったがそんなことを感じさせない口調で言った

「ところで、アレは？」

「ハハッ、大丈夫だ。そんなのは杞憂に過ぎん。天祭には言っただけだ？」

「え？如水はまだ知らんの？？？？？それおもしろいなー（＾ω＾）」

無駄に広く設備の整った部屋に面白いほど響いた。

「またそうやって直前に知らせるパターン……………」

「キーンコーンカーンコーン」

パターンか？と言う前にチャイムが鳴り、三人は部屋を出て各々の教室に戻った。

「は」。次は鉄装さんの授業か。」

応接室という部屋から。

参 まあ普通の放課後

「えーとそれではこのプリントは…」

キンコンカンコンコン

「今日も1日お疲れさーん!!」

「どっか寄ってく？」

「負けたからおごりな〜♪」

「帰ってからいつもの時間に集合な〜」

「あ、あのプリント!!………はあ。」

誰も聞いていない。むしろ1日の授業が終わった直前の高校生が聞くはずもない。

「それではまた明日あ…」

と、この学校の教師である鉄装綴里だった。

「はあ…今日もダメだったな〜」

「お、鉄装先生じゃん♪」

今日はアンチスキルの業務ないから呑みに行くじゃんよ!？」

そんな教師たちの会話を聞きながら川守はいつも通りの放課後を迎える。

（さあゝて今日はどんな感じかね。早く終わらして帰りたいんだけど雲川がなゝ）と頭で練り出しながら携帯の画面を見る。

「第2学区」

第2学区といえばジャッジメントやアンチスキルの訓練場があるところであるがやはり雲川はわからない

「それはめんどくさい。でもある程度待遇はいいし、まあしょうがないねゝ」

―同時刻―

そこそこの高級なホテル

常磐台のお嬢様レベルでないと入れないクラスの一室で雲川は見るからに富裕層が所有してそうな上質なソファ―にだらしく寝そべりながら

「柄じゃ無いことはわかる、わかるけど…」

ツンツン頭のあの少年の事を思い浮かべは遠くを見て、そしてポツリと呟く。

その繰り返しの中に
第二学区へと行くように指定したメールを送った雲川。いや、わか
らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3780u/>

とある少女の私設部隊

2011年10月9日07時55分発行